

月十一日、堀河院御歳十一始有御笛事、政長朝臣爲御師匠、仍其息有賢被免昇殿云々ト見エタルハ、即チ此時ノ事ナリ、

〔中右記〕天仁元年十二月十九日甲午、今日初有行幸鳥羽法王河白御所六條殿午時許參内中略未一點御出南殿中略寄鳳輦於南階初無同輿人、上御輿帷、公卿次第前行中略天下上下初奉見龍顏、

〔兵範記〕仁安三年八月四日癸巳、今日行幸法住寺御所白河後幼主倉高即位以後、上皇白河皇太后宮子滋初爲朝觀也中略

自大皇御手本裏青地錦、付銀松枝、内大臣藤原忠雅取之、自東方經南簀子、跪御前渡西、下官請取之、給納殿藏人信廣、御琵琶入錦袋、藤大納言取之、同經御前、給藏人左衛門佐了、

次自皇太后宮御笛裏錦、付銀枝、大夫取之、同經御前、給藏人少輔兼光了、次御馬六疋、皆安平文移鞍、

左少將修範朝臣著青朽葉下襲、若女郎花歟 伊保朝臣 光能朝臣 泰通朝臣 顯信朝臣

已上帶胡籙著淺沓

院御隨身左近將曹秦兼賴以下六人取片綱、南庭三匣了、引出西中門、給左右馬寮了、

〔古今著聞集八孝行恩愛〕建春門院滋平は兵部大輔時信が女なり、小辨とて後白河院にさぶらはせ給けり、御寵愛ありて、高倉院をうみ奉らせ給にけり、東宮にたせ給て、仁安三年御讓位有けり、御即位の日、女院皇太后宮に立給ひて後、朝觀の行幸有けるに、宮簾中におはしますを、主上高倉拜し參らせ給けるを、むかし肩をならべまゐらせられたりける上臈女房たれとかや、宮の御そばへ參て、此御目出たさをば、いかゞ覺しめすと問參らせられければ、さきの世の事なれば何とも覺えずとぞ仰られける、ゆゝしかりける御こゝろなるべし、